

## 上宮寺通信

第九十一号

## 浄土と天国

春分の日を挟んで前後3日間の一週間、「春のお彼岸」(今年は17日から23日)となります。ちょうど太陽が真西に沈む時期ということもあり、その方角に阿弥陀仏のおられる西方極楽浄土を想うことから「お彼岸」という行事は始まったといわれています。

極楽浄土は一般的には命を終えてから生まれていく世界と理解されているのではないでしょう。親鸞聖人も生きている間に浄土に生まれることはなく、命を終えた時にまいらせていただく世界であるといわれています。ですから浄土真宗では命を

終えることを「浄土へ還(かえ)る」とも表現するのです。

命を終えればみな浄土へと還らせていただく。浄土こそ私たちの命の本当の故郷である。そのように浄土真宗では浄土のこゝを受け取らせていただくのですが、最近、お葬式のお別れの言葉などで「天国」という言葉をよく聞くようになりました。

ここでいう「天国」はキリスト教の神の国であり、命を終えてから生まれていく世界を指していると思われまゝ。宗教観が薄れている現在ですから混同して使われているのでしょうか。

キリスト教でいうところの「天国」のことは詳しくわからないのですが、仏教でも「天国」という世界観はあります。しか

し、その天国は迷いの世界のひとつと数えられています。

仏教では迷いの世界を「地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天」の六道とあらわします。その中の「天」とは人間のあらゆる欲望が叶う世界といわれます。一見、迷いの世界ではないと思われるのですが、欲望が叶っても満足しない人間の煩惱の姿からすればやはり迷いの世界なのです。

そして、天の中でも一番上の天のことを「有頂天」といいます。この言葉は日常でも使う言葉ですが、あまり良い意味では使われないことが多いです。ものごとが上手くいったときについついテングになってしまう私たちの姿を指します。ですから「天」は覚りの世界ではなく、迷いの世界なのです。

反対に浄土は極楽浄土といわれます。究極の「楽」の世界が浄土ということですが。力の抜けた何にもとらわれない、それでいて皆が楽しい世界、それが浄土といわれる仏様の世界です。自分ひとりの欲望など超えた世界なのです。

そのような浄土に生まれたいと願いなさいと、私たちの救いを誓ってくださいなのが阿弥陀仏です。その阿弥陀仏の願いを聞き、浄土を想う。それが「お彼岸」なのです。



◆行事案内

3月7日(土)

春のお彼岸・永代経法要

時間：午前10時～

法要 引き続き 法話

(正午頃終了予定)

法話：林 祥真師(一宮市禮讚寺)

※午後の法要、お斎、呈茶はございません。

※お持ち帰り用の軽食を用意いたします。

※例年と日にちが違いますのでご注意ください。

○ホームページ、公式LINEもよろしく願います。



ホームページ



公式 LINE

◆話題あれこれ

○「春のお彼岸・永代経法要」を3月7日(土)に勤めます。前号でもお知らせしたように、例年は8日ですがマラソン開催日と重なるため7日に変更いたします。少しずつ暖かくなってきたかと思いますが、足元が冷えるかもしれません。防寒対策もお願いします。皆様のご参詣をお待ちしております。

○4月1日(水)～3日(金)まで京都・東本願寺で「春の法要」が勤まります。今年は楽僧として出仕させていただきます。法要時間、行事等は宗派のホームページでご確認ください。

○4月16日(木)午後5時から、例年のごとく名古屋東照宮舞樂祭が行われます。徳川家康公の命日の前夜祭として奉納される舞樂ですが、任職も演奏者(3曲ほど)として出させていただきます。ただ、少雨でも中止となりますのでご注意ください。

○花粉症の人にとっては辛い季節です。体調管理には十分お気を付けてください。



【雑感】

史上最多のメダルを獲得した冬季オリンピック。イタリア開催ということもあり、競技の多くは日本時間の深夜。リアルタイムで観る競技は少なかったですが、朝の速報でメダル獲得のニュースが流れてくると一日が気分よく過ごせました。メダルを獲得した選手はもちろんのこと、逃した選手たちも皆、この一瞬に人生のすべてを賭けています。その姿に最近、涙腺も弱くなったせいか、感動ばかりしていました。こんな素晴らしい思いをさせてくれるオリンピック。「平和の祭典」がいつまでも続きますように。(任職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547